

令和3年2月1日

## 行政政策学類高橋有紀ゼミが「ゼミ活動補助費」を寄付しました

行政政策学類高橋有紀ゼミでは、新型コロナ感染症拡大防止のために一切のゼミ行事を中止したことに伴い、学類後援会及び学類学友会から各ゼミに支給される「ゼミ活動補助費」を全額寄付しました。

2年ゼミの活動補助費は、日本更生保護協会による「立ち直り応援基金」に寄付し更生保護の発展に、3・4年の刑事政策ゼミの活動補助費は福島市保健所に寄付し、市内の医療従事者や保健所の皆様にお役立ていただきます。

本学行政政策学類では、毎年、学類後援会及び学類学友会から各ゼミに「ゼミ活動補助費」が支給されます。例年、どのゼミもこの補助費をゼミ合宿や懇親会の開催の一助にしています。しかし、今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、高橋有紀ゼミでは一切のゼミ行事を中止しました。そこで、例年に代わる活動補助費の使い道として、各学年のゼミの学習内容を踏まえて、下記の通り、寄付いたしました。(寄付先等の詳細は別紙参照)

### ・2年ゼミ（問題探求セミナー）

寄付先：日本更生保護協会「立ち直り応援基金」

寄付内容：寄付金1万円(学類後援会からの活動補助費全額) 1月29日振込。

備考：「若い世代に更生保護を知ってもらう」というゼミのテーマに合わせ、「立ち直り応援基金」を応援するメッセージを各自で作成し、ゼミのTwitterで発信。

### ・3,4年ゼミ（刑事政策ゼミナール）

寄付先：福島市保健所（医療従事者及び保健所職員の皆様へ）

寄付内容：ドリップコーヒー200杯分（学類後援会及び学友会からの活動補助費の全額（計2万円）で購入）。2月1日宅配便にてお届け。

備考：受刑者・出所者の支援を行うNPO法人マザーハウスより上記コーヒーを購入して寄付。

本件寄付について、福島市保健所への取材・お問い合わせはお控えください。  
(福島市保健所からの要請です。)

（お問い合わせ先）

行政政策学類准教授 高橋 有紀

電話：090-5033-9296

メール：y-takahashi@ads.fukushima-u.ac.jp

### ● 2年ゼミの寄付について

・「立ち直り応援基金」は、保護司や更生保護女性会、更生保護施設など多くの民間協力者によって支えられている更生保護の活動を活性化するために、市民や企業から広く寄付を集める趣旨で、昨年8月に設けられました。日本更生保護協会が管理・運営を行っています。（詳細は <https://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/kouseihogo/kouseihogoo004.html>）

・2年ゼミでは、「若い世代に更生保護を知ってもらうには」という観点で、更生保護に関する法務省や保護観察所による既存の広報・啓発活動の意義や課題を検討したり、「裁判の仕組み」の解説に偏りがちな法教育に更生保護の情報を盛り込む方法を議論したりしてきました。

・「立ち直り応援基金」は、「1000円から寄付できる」ことを掲げ、若者を含む市民が気軽に更生保護を応援できる取組みであり、「若い世代に更生保護を知ってもらう」という2年ゼミのテーマに重なるところも多いことから、寄付先に選びました。また、社会の多くの若者が「立ち直り応援基金」を知り、更生保護のために自身ができるを考えるきっかけになればと考え、「立ち直り応援基金」を各自が応援するメッセージを作成し、ゼミのTwitterで発信しました。（写真）

福島大学高橋有紀ゼミ（2年ゼミ&3, 4年ゼミ）@yukize... · 2時間 ...  
福島大学行政政策学類では毎年、学類後援会から各ゼミに活動補助費が支給されます。例年はこの補助費を懇親会や「芋煮」の開催に充てますが、今年はコロナの感染拡大防止のため、一切のゼミ行事が中止になりました。  
そこで、2年ゼミでは、#立ち直り応援基金に活動補助費全額（1万円）を寄付いたしました。

福島大学高橋有紀ゼミ（2年ゼミ&3, 4年ゼミ）@yukize... · 2時間 ...  
1年間、「更生保護について若い世代に知ってもらうには？」をテーマに学習してきた2年ゼミ。  
遠隔授業となった最後の回には、#立ち直り応援基金を応援するメッセージを各自で作成し、スクショにしました！（※個人情報にかかる部分を加工しています。）

● 3, 4年ゼミ（刑事政策ゼミナール）の寄付について

・ 刑事政策ゼミナールから福島市保健所に寄付したドリップコーヒーは、受刑者や出所者の支援を行う NPO 法人マザーハウスが出所者等の就労支援の一環として、ルワンダから輸入したコーヒー豆を焙煎したものです。（写真）（マザーハウスの詳細は、<https://motherhouse-jp.org/>）

・ 刑事政策ゼミナールでは、昨年 12 月、同法人理事長の五十嵐弘志氏にゼミでご講演いただきました。出所者等の立ち直りにおける就労支援の意義や課題には、以前からゼミ生の関心が高く、卒論のテーマにした 4 年生もあり、同法人が就労支援の一環として、コーヒーの製造を行っていることに多くのゼミ生が興味を持ちました。

・ 寄付先や寄付品については、上記のコーヒー以外に、「刑務所の刑務作業で作られているおもちゃを購入し、県内の児童施設に寄付する」「子どもの貧困問題に取り組む団体に現金で寄付する」など、複数の案の中から、ゼミ生による多数決で決定しました。立ち直りに励む人々が焙煎したコーヒーを通して、市民のために新型コロナとたたかう医療従事者や保健所の皆さんをささやかながらも応援できればとゼミ生一同考えています。



● 個別取材について

「お問い合わせ先」（高橋携帯またはメール）にご連絡ください。本資料中の写真のデータは提供可能です。